

第1幕 第1場 冬の森

オオカミ：ウォー、森には だれもいないみたいだが、どっこい おれはだまされないぞ！
においがする。ウォー、 みんなくっしまおう。

カラス：カー カー！ちょっかいださずに、行っちまいな。おまえさんこそ気をつけろよ。わしは、目のいいカラス さ。

オオカミ：ふん、それで 何が見えるんだ？

カラス：カー カー！兵士が やってくる。銃をかついで オオカミをやっつけに。
おや、どこへ行くんだね！

カー カー 行っちまった。森のおくへ にげれば助かるってわけか。

……ままむすめ たきぎを拾いながら登場……

今日は、おおみそか。どおりで寒いわけだ。さあ、ひとつとびしてあったまるとしよう。

わしも年をとったもんだ。

…カラス 飛びさり 老兵士 登場…

老兵士：こんにちは むすめさん！

ままむすめ：こんにちは！

老兵士：おまえさんは こんな寒い日に なぜここに来たんだね？よくまあおっかさんが
出してよこしたな。 ままむすめ：おかあさんだったら 出さないわ。まま母なの。
かれ枝をひろってくるように言われたの。

老兵士：なんてこった！みなしごかい？それで身なりも おさがりなんだなそれじゃあ風
がふきとおしだろう。

よし、おれがてつだってやろう。そのあと自分の仕事にとりかかろう。

ままむすめ：おじさんの仕事って 何？

老兵士：モミの木を切るのさ。森の中で1番いいやつをな。

ままむすめ：だれのモミの木なの？

老兵士：えっ、だれのって 女王さまのさ。あすは お城にお客さまが大勢おいでになる。
だからみなさんを びっ くりさせなくては。

…2人 たきぎを拾い集める…

ままむすめ：ご親切に ありがとう。今日は 早く かたづいたわ。ほらまだ お日様が
たかいもの。そうだわ

モミの木を1本 お見せするわ。とっても すてきなモミの木で 枝ぶ
りも 立派なの。

老兵士：見せておくれ。ここの森では お前さんは 身内のようなものだろう。

… 2人 そりを置いて やぶの中へ 入っていく。風の音。

12月の月と1月の月が 出てくる…

12月：さて兄弟。いよいよ おまえさんの月だ。わしの12月は すべてうまくいったようだ。

1月：ありがとう兄弟。おまえさんは 立派に はたらいた。そろそろ祝いのしたくにか

か
るとしよう。森に新しい雪 をふらせ 枝に銀の化粧をしてやろう。そでをふってく
ださら

んか。まだ おまえさんが ご主人だ。

12月：まだ早すぎは しないかな。夜までには だいぶ間がある。ほらあそこに そりが
ある。

まだ森の中に人間がいるのだ。道を雪でうずめたら帰れなくなってしまう。

1月：では 少しずつはじめてもらおう。お客たちも家に帰る時だと気づくだろう。

12月：では 少しずつ はじめるとしよう。

雪のあらしよ、すべての道を うずめつくせ。だれも森に はいれぬように。ウ
マに

のっているものも、歩い ているものも、森番も、森の精も！

老兵士：ひどい ふぶきになった。これこそ新年をむかえるふぶきだ。なんにも見えない。

いそごう！そりは どこ だ。

ままむすめ：ここにあったわ。 …モミの木を つむ…

老兵士：さあ これでよし。出発だ。

ままむすめ：出発！……まあ？

老兵士：どうした？

ままむすめ：みてよ！ほら、あのマツの木のかげに おじいさんが ふたり白いオーバー
をきて

立っているわ。

老兵士：だれもいないよ。気のせいだよ。あれはマツの木だ。

ままむすめ：いいえ、あたし見たの。ふたりのおじいさんがオーバーをきてぼうしをかぶ
っ

ていたわ。

老兵士：おれのじいさんの、そのまたじいさんは、ちょうど大みそかの晩に12人の月たち
がみんな一緒に会って いるところでくわしたそうさ。※→

1月：いつてしまったか？

12月：いつてしまった。ほら、もうあんなところだ。山をおりて行く。

1月：さて、どうやら あの二人が おまえさんの さいごのお客さまだったようだ。も
う

今年は だれもこの森には はいってこないだろう。

兄弟たちをよんで 新年のたきびの用意をしよう。

12月：まきの用意は だれがする？

1月：わしら冬の月たち。

12月：では、火を はこんでくるのは だれ？

春の月：春の月たち。！

12月：火をもえあがらせるのは だれだ？

夏の月：夏の月たち！

12月：あつい火をけすには だれ？

秋の月：秋の月たち。

1月：さて、兄弟。1年の月の兄弟たちが みんなあつまったらしい。夜、だれも でたり

はいったり できぬよう に、森をとざしておくれ。

12月：よろしい とざすでしょう！

白いふぶきよ、とびかう雪を かきまわせ

けむりのように 立ち上ぼれ 綿毛のように地面に落ちろ

森の前で壁になれ ほら鍵だ だれも通れぬように （歌、暗転）

※→でも こんな日は、木だってオーバーをきて ぼうしを かぶっているよ。

さあ、いそごう。…2人行ってしまおう。…※

第2場 女王さまの勉強部屋

女王：もう書けないわ。手がインクだらけよ！

博士：まったく ごもつともでございます。でも、あと4行だけ お書き
ください。

女王：いいわ。…読みなさい。

博士：草は 青々として 太陽は かがやき

ツバメは 春とともに わが軒さきに 飛びきたる！

女王：「草は 青々として」だけにするわ。

く、さ、は、あ、お、あ、お、と、し、て、※→そこへ大臣が来る

→※勉強は もういや！ なにか おもしろい話でもしてよ。

博士：なにの？どんな話が よろしいでしょうか？

女王：わからないわ。…そう新年の話かなんか。だって 今日は、おおみそか で
すもの。

博士：かしこまりました。1年は12の月から なりたっております。月は、順序正
しく すすみませす。2月が1月より 先に来たり、9月が8月の前に来りす
ることは けっして ございません。

女王：もし、今すぐ 4月になるようにって 私が願ったら？

博士：それは できないことです。

女王：今 4月だったらいいのに。わたくしマツユキ草が 大すき。あしたは、新年のお祝いが あります。だから わたくしの机に ええと
そうそう マツユキ草をかざりなさい。

博士：女王さま それは！

女王：博士は、わたくしの机に すわって書きなさい。「草は 青々とし
太陽は 輝き」「新年に かごいっぱい マツユキ草を お城に
とどけることを 命じる。かなえたものには、そのかごいっぱいの
金貨と、銀ギツネの毛皮のオーバーを あたえるであろう。」
書いた？ おそいのね。後は、よろしくね。

博士：ははあー。

…女王 去る。おふれの役人 登場。

役人1：新年のお祝いを前にして、女王の命令をつたえる。

今日 わが国に マツユキ草を さかせること。

役人2：草は 青々として 太陽は、輝き

ツバメは 春とともに わが軒さきに 飛び来たる

役人3：それゆえ 新年に かご ippaiのマツユキ草を お城に とど
けるようにと 女王様は 命令された。

役人4：この ご命令を かなえた者には、女王様の名で ほうびを
くださるであろう。

役人1：マツユキ草を いれてきたかごに はいるだけの 金貨を
くださるであろう。

役人2：うらに 銀ギツネの毛皮のついたビロードのオーバーを くださる
であろう。

…役人がラッパをたからかに ふきならす。(暗転、音楽)

※→から

大臣：おはようございます。女王様に お決めいただきたいのです。

女王：何を決めるの？

大臣：2つに1つで ございます。「死刑」か、「釈放」か。

女王：「死刑」、「釈放」そうね。(指で数える) 「死刑」にするわ。

この方が 書くのに簡単なもの。(書類にサインする)

博士：なんということだ。あなたさまは、一人の人間の運命をろくに考えも
なさらずに決めてしまった。

女王：あなたの言うことを聞いていたら、わたくしは、考えて 考えて
しまいには 頭がおかしくなるでしょう。わたくし女王でよかったわ
みんなが言うこと聞いてくれるもの。

博士：あー。(絶望する) →※P-4の 勉強は もういや！へ。続く

第3場 ままむすめの家

あねむすめ：ねえ、おっかさん。これにたくさん金貨が はいる？

ママ母：ああ、たくさん はいるよ。

あねむすめ：毛皮のオーバーが 買える？

ママ母：オーバーどころじゃないよ。オーバーも、スカートも、くつしたも

あねむすめ：じゃあ、これだったら？

…少し 大きなかごを手にとる。

ママ母：もっと はいるね。石づくりの家が たてられるさ。それに、くら
を つけたウマも。

…1番 大きなかごを手にとる。

あねむすめ：じゃあ、これだったら？

ママ母：もう言うことないね。金の食器、金の服、金のくつ それに
金の耳かざりだってつけられるよ。

あねむすめ：そうね。やっぱり これにしよう！でもマツユキ草がなけりや
だめだわ。 あの子をやってよ。

ママ母：そうだね。あの子をやらない手はないね。森は近いし、すぐだもの
あの子が花をつんできたら、おまえとわたしで お城に もっていけばいい。

…この時、まむすめが、部屋に入ってくる

ママ母：どうかい？外は ふぶきかい？

まむすめ：地面も空も 見えないくらい。雲の中を歩いているみたいだっ
たわ。やっと家に帰ってこられたわ。

ママ母：ふぶきが ふくから冬なのさ。

まむすめ：でも こんなにひどい ふぶきは、今年はじめてだし、もう
ないわ。

あねむすめ：どうして わかるんだよ。

まむすめ：だって 今日は おおみそかよ。

あねむすめ：まったく、もう。うらないが言えるんだから たいしたこと
なかったのね。どう、あったまった？また 行かなくっちゃ
いけないんだよ。

まむすめ：どこに？

あねむすめ：森よ！

まむすめ：森？どうして？たき木は たくさん ひろってきたわ。

あねむすめ：たき木じゃなくて、マツユキ草よ！

ままむすめ：まあ、こんなふぶきにマツユキ草だなんて！今日なんか死んでもおかしくないくらいよ。

あねむすめ：あんた、女王様のご命令を 聞いてないの？

ままむすめ：ええ。

あねむすめ：何も知らないのね！町じゅう この話で もちきりよ。今日マツユキ草をつめば 女王さまが、かごいっぱい金貨と銀ギツネの毛皮のオーバーをくれるんだよ。

ままむすめ：今ごろマツユキ草だなんて、冬なのに。

まま母：春なら金貨は、くれないさ。

ままむすめ：冬の森に花がさくなんて聞いたことないわ。それにこんな暗くちや見えないし。

あねむすめ：低く かがめば見えるよ。

ままむすめ：あたし、行かないわ。

あねむすめ：えっ？行かない、だって。

ままむすめ：ねえさんは、あたしが かわいそうだと思わないの？森から帰れなくなるわ。

あねむすめ：じゃあ、あんたのかわりに あたいが行けばいいの？

ままむすめ：だって金貨がほしいのは、あたしじゃないわ。あたしは、いらぬもの。

…まま母 かごをもって ままむすめの前にくる。

まま母：おまえが行くんだよ。ストールをかぶって、このかごを持ってお行き。だが、わすれちゃいけないよ。もしおまえが どこか近所にすわってなんか いたのがわかったら、うちへは いれないからね外で ござえておしまい。

あねむすめ：いっという。マツユキ草をもたずに帰るじゃないのよ！

…ままむすめ でていく。(幕) 音楽ピアノコンチェルト第1番

第2幕 第1場 森の中

森の中。ままむすめは、深い雪の中 やつとのこととで歩いている。木のてっぺんから 雪のかたまりが 音をたてて 落ちる。

ままむすめ：あつ、だれ？ 雪が落ちたのね。 もう歩けないわ。ここにしよう。

オオカミ：ウォーウォー、人間のにおいがする！正月まえに 晩めしだ。

カラス：カーカー。おい！気をつけろ。おまえさんの えものはないぞ

オオカミ：おや、また おまえか。けさは、だまされたが　こんどは
ごまかされんぞ。

カラス：じゃ、言ってみな。おまえの右には何がある？　左には？

オオカミ：わからないと　おもっているのか？右は　やぶ、左も　やぶ。
そして　前には　ごちそうだ。

カラス：カーカー、うそつくな！右には　わな、左には　毒、そして
前には落とし穴だ。おまえの助かる道は　ただ一つ。引き返すだけ
…オオカミ逃げていく…　おい、どこへ行くんだ？
…カラス　ままむすめの　ところにとんでくる…

おい　べっぴんさん、目をさましなさいよ。寒い所で　ねむって
いたら　ここへ死んでしまうよ。カーカーカー。

…12人の月たちがでてきて、たき火の用意をする。カラス去る。

月たちの話声、笑い声、パチパチと木のはぜる音がする。…

ままむすめ：あつ！…目をさまし、おどろいて　目をこする。…

たき火だわ。…ままむすめ　木の間に立ち止まり、じっと
見ている。火は　いちだんと強くなる。勇気をだして　ゆっくりと　木の
かげから出て行く。12月たちは、だまって　むすめを見る。むすめは
おじぎをする。……

ままむすめ：こんばんは。

1月：こんばんは。

ままむすめ：あのう。おじゃまじゃなかったら　たき火にすこし　あたらせ
て　くださいな。

1月：どうかね？　いいかい、いけないかい？

2月：たき火のそばに　わしらのほかには、だれも　すわったことがないぞ

4月：それはそうです。本当です。でも　ぼくたちの火を見て　きたんだから、
あたらせてあげましょう。

5月：そうしよう。たき火のあったかさが　へるわけでもない。

12月：さあ、おいで　むすめさん。こげないように気をつけるんだ。ごらん
わしらの　たき火は　こんなに燃えている。

ままむすめ：ありがとう　おじいさん。…火にあたる…　いい気持だわ。
ほんとうに　よく燃えてて　あったかいこと！

…歌　「12月の歌」

6月：かごを　持っているようだが、マツぼっくりでも　拾うのかい？

7月：森だって休まないと。いつも　取りにきては　いけないよ。

ままむすめ：きたくて　きたんじゃありません。それにマツぼっくりじゃ

ないの。

8月：じゃあ、キノコかい？

ままむすめ：キノコではなくて、花なの。かあさんがマツユキ草をつんで
こいって。

9月：聞いたかい？ マツユキ草だってさ。ほら、4月の兄弟、君のお客さ
んだ。…みんな 笑いだす。…

ままむすめ：あたしだって笑いたいくらいよ。でも、笑いごとじゃないの。

10月：なぜ冬のさいちゆうに マツユキ草が いるんだね？

ままむすめ：いるのは、花ではなくて、金貨なの。マツユキ草を お城に
持って行くと、そのかごに金貨をくださると、女王様が約束
なさったの。

11月：それは、こまった。今は マツユキ草の季節じゃない。4月を 待た
なくては。

ままむすめ：それは わかっています。でも 行く所が なかったの。あた
らせてくださって ありがとう。おじゃまして すみませんで
した。…娘 行こうとする。

4月：待って。いそがないで。1月のにいさん、1時間だけ 席を ゆずっ
てください！

1月：わしは、いいが、4月は 3月のつぎに来るものだ。

3月：なに、わたしは かまわない。2月のにいさんは？

2月：わしも いいさ。とやかくは 言いますまい。

1月：それなら 君たちの いいように。

…1月は つえで大地をたたく。森の中 静かになる。空には星。

1月：さて 次は、2月の兄弟だ。

…2月 同じようにする。つえをたたき、そでをふる。

2月：3月の兄弟、今度は、君の番だ。

3月：さて 今度は、君の番だ。4月の兄弟。

4月：小川よ はしれ 水たまりよ ひろがれ

アリたちよ はいだせ 冬の寒さは いってしまった

たおれた木の間から クマが のっそり やってくる

小鳥が 歌いはじめた そして マツユキ草が さいた

…舞台 一変。春、マツユキ草が さいている。

娘 びっくりして 立ちすくむ。…

ままむすめ：ええっ、どうして こんなことになったの？本当に冬のさなか
に 春になったの？

4月：いそいで、みんなが1時間だけ くれたんだよ。はやく マツユキ草
を つんで。さもないと冬にもどってしまう。

ままむすめ：うん。いそがなくっちゃ！

…歌 「一瞬の今を」、娘 花をつむ。

1月：もう かごいっぱい つんだか。何て すばしこい手だ。

ままむすめ：だって かぞえきれないほど あるんですもの。みなさん あ
りがとう。(1月に おじぎをする。)

1月：お礼なら4月の弟にしなさい。あれが おまえのために頼んだのだ。

ままむすめ：ありがとう、4月のおにいさん。いつまでも忘れません。

4月：本当に忘れないように、この指輪をあげよう。

4月：これを見て ぼくを思い出しておくれ。もし こまったことが
あったら これを 大地や水の中や雪のふきだまりに投げて こう言うんだ。

…娘の耳もとで ささやく。音楽 …

ぼくたちは、君を救い出しにいくよ。どう おぼえたかい？

ままむすめ：ええ おぼえたわ。(4月の耳もとで ささやく。)

…歌 「指輪の呪文の歌」 …

1月：さあ、お別れだ。今日のことは だれにも言わないでおくれ。

いそいで 家にお帰り。

ままむすめ：はい。さようなら、12月のみなさん。

月たち：さようなら。 …娘 行ってしまう。

12月：さあ、1月の兄弟、冬の中の春も終わりだ。つえを持ちなさい。

1月：4月の弟よ。わしに つえを 返してくれ。 時間だ！

……幕、音楽

ナレーター：マツユキ草をつんで帰ってきたので、まま母とあねむすめ→

※まま母、あねむすめ：ホホホホ、ハハハハハ……

まま母：まったく あの子は さがしものの天才だよ。ま冬に こんなに
たくさんのマツユキ草をつんできたんだ。こんなこと聞いたことも
ないよ。第3幕 ご殿の広間

女王さまの お城の大広間。きれいにかざられたモミの木など。

一同：女王さま、新年おめでとうございます。おしあわせな年でありますように。

女王：わたくしは、いつもしあわせよ。でもまだ新年には なっていません

大臣：しかしながら、女王様 今日は 1月1日で…。

女王：あなたは、まちがっているわ。博士、12月は 何日？

博士：きっかり 31日です。 ございます。

女王：では 今日は 12月32日です。

女官庁：これは 女王様の お見事な ご冗談です。

女王：いいえ、わたくしは、けっして冗談を言っているのでは ありません

明日は、12月33日、あさっては、12月34日、その次は 何日？

博士！言いなさい！

博士：12月35日、12月36日、12月37日、でも女王様 こんなことは ありえません。

女王：マツユキ草が かごにいっぱいとどくまでは 12月は、終わらないわ大

臣：女王様、花なら こちらに いっぱい そろえました。

女王：これは 何の花なの？

女官庁：アジサイです。そして こちらがシャクヤクです。

女王：シャクヤクなんて シャクにさわるわ！わたくしは マツユキ草が
ほしいの。

役人：女王様、ご命令のマツユキ草が とうちやくしました。まずしい2人
の女が 持ってきたのであります。

女王：その2人の女を よびなさい。

…2人 ひれふしながら入ってくる。一同 おどろく。…

女王：これがマツユキ草なのね。

ママ母：まちがいございません。雪のふきだまりの下から とって まいり
ました。

…女王 花を博士たちに みせびらかす。…

女王：とってもすてき。さあ、わが国も 12月が終わって 新年になりました

一同：新年 おめでとうございます。(笑い声など おこる)

女王：さて、そこの二人、どこで 花を見つけたか 話しなさい。

ママ母：女王様、森の中でマツユキ草をさがすことは、たいへんなことでした。
ほうきで道をはき、シャベルで雪のふきだまりをかきわけて
行きました。どうして そこに たどりついたのかわかりません。
はいずって 行ったんです。

女王：はいずって？ さあ、それから？

ママ母：はって やっと そこにたどりついたんです。すばらしい所でした
まるい湖でした。岸边には かぞえきれないほどの花が。

女王：ぜんぶマツユキ草なの？

ママ母：いろいろな花です。花のじゅうたんをしきつめたよう。

あねむすめ：すきなものは なんでもあります。

…女王は 手をたたいて 喜ぶ

女王：すごい！すぐ、森に行きましょう。

まま母：女王様 とんでもありません。

女王：どうして？行きたくないの？

まま母：女王様 あそこまでは とっても遠いのです。

女王：遠いといっても わたくしが 命令をだしたのは 昨日。そして
もう 今日は ここに花があるのよ！

まま母：それはそうです。でも 途中で ひどくこごえました。

女王：こごえた？だいじょうぶよ おまえたちに あったかいオーハーを
あげます。わたしにも オーバーを ちょうだい。そりを用意して。
森の中の そのまるい湖に行きましょう。

一同：ははあー。 …まま母、娘 オロオロする。

女王：この二人の女を前のそりに のせなさい。道案内をさせるから。

まま母：何の道ですか。だって その湖は ないんです。

女王：どうしてないの？わかったわ。わたくしを からかっているのね。

まま母：まさか そんなこと！ おゆるしてください！

女王：そういうことだったの。どこでつんだか本当のことを言わなかったら
今 すぐ ひっとらえるわよ。

まま母：わたしたちは 何にも知らないのです。わたしたちが つんだんじ
ゃ ないんです。

女王：まあ！ おまえたちじゃないの。では だれなの？

まま母：わたしの ままむすめなんです。あの ろくでなしが 森に
行ったんです。

女王：その子が森に行ったのに なぜ その子をつれてこなかったの？

まま母：あの子は まるで森のけもののように 人間をこわがるのです。

女王：そう。その ろくでなしならマツユキ草までの道が わかるのね？

まま母：あの子は 強情っぱりなんですよ。

女王：そう。わたくしも強情っぱりなの。 金貨は まだあたえるわけには
いかないわ。おまえたちは 一番 はやい馬で その ろくでなしを
つれて わたくしたちに追いつきなさい。わたくしが 森から無事に
もどるまで どこかの部屋にいてもらいます。

二人：かしこまりました。(おじぎをして、役人と出て行こうとする。)

女王：お待ち。その指輪を見せなさい。お前には 似合わない立派なもので
すこと。どこかで盗んだのでなければ、いつ どのようにして手に
入れてか説明してもらいましょう。

あねむすめ：かあさん！

まま母：ひろったのでございます。うちの ろくでなしが、うっかり落とし

たものを この子が見つけて、ちょいと借りてきたのでございます
女王：さあ、どうかしらね。とにかく これは わたくしが預かります。

正当な持ち物だとわかれば、あとで その ろくでなしめに わたくしが返してやることにします。

…指輪をとりあげる。2人を役人につきだす。

女王：さあ、これから みんなで森に マツユキ草をとりにいきましょう！

一同：ははあー。(幕、音楽)

ナレーター：こうして、まま母とあねむすめは とらえられ、ままむすめは
女王につれられて森へ行くことになりました。

第4幕 森へ、森の中

歌、「森へ向かうソリの歌」

女王：これが森なのね。これ、おまえ。おまえがマツユキ草をつんだのは
このあたりなの？ どうなの？ 答えなさい。

…娘 だまっている…

女王：なるほど強情な子だこと。そこにいる兵隊、こちらに来なさい。

シャベルでこの雪を掘りなさい。マツユキ草がでてくるかもしれない
から。

兵士：かしこまりました。おーい、こっちだ。(兵士が やってくる。)

…兵士 雪を掘る。

兵士：やれやれ すっかり汗けえちまった。今度は おまえ一人で あっち
の方を掘りな。

女王：お待ち。おもしろそうだこと。そのシャベル貸してちょうだい。

わたくしも掘ってみたくなかったわ。

女官庁、博士：女王様 それは！

…女王 シャベルをとって 掘り出す。

女王：もうやめたわ。マツユキ草は うまっていないようね。それにあんまり
掘ったので 汗けえちまった。

女官庁：まあ！ …一同 ぎょっとして女王を見る。

女王：わたくし まちがえて言ったのかしら。

博士：いいえ、まったく正しくおっしゃいました。しかし その言い回しは
上流社会のものでは ございません。

女王：そう。いいわ。それよりマツユキ草は どこに あるのかしら？

もう1度言います。どう行ったらよいのか、話しなさい。

ままむすめ：それは言えません。

女王：そうなの。これは おまえの指輪だろう。マツユキ草のところへ行く
道をおしえてくれたら これを返してあげよう。さ、早く。

ままむすめ：申せません。

女王：それじゃあ、おまえは もう指輪と お別れね。

女王：わたくしは、これを氷の穴へ投げろわ。1、2の3！

ままむすめ：あたしの指輪が！（顔をおおって泣く）

女王：わたくしが ほんとに投げたと思うの？ほら、まだここに、この手の
中にあるわ。たったの一言でこれは、おまえのものよ。どう、まだ
強情はるつもり。最後にもう1度たずねろわ。マツユキ草のところへ
行く道を教える？教えない？

ままむすめ：教えません！

女王：指輪とさよならしなさい。その子をつかまえてちょうだい。

何よ、こんなもの！（指輪を投げる）

ままむすめ：（ふりきって前へでる）

ころがれ ころがれ指輪よ ころがれ ころがれ指輪
春の玄関口へ 夏の軒端へ 秋の高殿へ 冬の絨毯の上を
新しい年のたき火をさして

女王：なあに？あの子は 何を言っているの。

…はげしい風と吹雪に 一同巻き込まれる。白いものの姿が走る。

娘を連れて 消える。…

月の声： まわれ まわれ 季節よ 吹きすさべ 吹雪よ

（テープ） おろかな人間たちの気まぐれから 森のこよみをまもるために
OHP→春

女王：ごらんなさい、マツユキ草よ。ここにも、あそこにも。なにを
ぐずぐずしているの！はやく おつみなさい。

OHP→夏、秋、冬 （音楽）

女王：ごらんなさい、雪よ！ また冬だわ。

博士：それこそ あるべき状態です。今は、1月なのです。

女王：おお寒い。聞こえて？あれは何？風かしら。

兵士：いいえ、女王様、オオカミどもでございます。

女王：なんて おそろしい。わたくしたち ここで死んでしまうの？
なんだって わたくしは、あんなばかげたおふれをだしたんだろう。
（しゃがみこんで 泣く）

1月：おまえさんがた 何しに ここへ おいでなすった。 P-16

博士：マツユキ草をつみにであるが。

1月：今は マツユキ草の季節じゃない。

博士：（ふるえながら）まったく そのとおり。

女王：わかっています。教えてください。どうやってここをぬけだしたらよいのでしょうか。

1月：きたときのように もどればいい。

兵士：ごめんなさいよ、だんな。ここへくるとき使った乗り物が、わしをおいて逃げちゃったんですよ。

女王：わたくしたちに力をかしてちょうだい。わたくしは、王として あなたに ごほうびをあげます。おのぞみなら金でも銀でも。

1月：わたしには なんにもいりません。わたしの所には なんでもある。どんな のぞみか 言ってごらん。

女王：わたくしの のぞみは ひとつ 御殿へ帰ること でも ここから乗って行くソリを なくしてしまった。

兵士：わしの のぞみは ひとつ たき火で ぬくもること はじめは びしょぬれ つぎは凍えて 手足もうごかない

博士：わたしの のぞみは すべてが あるべきようにあること 冬のものは冬に 夏は夏に そして人は 自分の家に

1月：のぞみは かなえられるであろう。煙のにおいのする方へ 向かって行きなさい。

…歩いて 去る。 幕

…たき火とまわりに 12 の月たち、ままむすめが いる。歌「12 月の歌」…

1月：さて、大切なお客さん、おまえさんも ほのおの中に まきを投げ込んで遅れ。どうだい、あつくなってきただろう。

ままむすめ：ありがとう。2度 あたしの いのちを すくってくださったわ。でも あなたたちの目を見るのが、はずかしいの。おくりものを なくしてしまったの。

4月：なくした？それじゃ、ぼくの手の中にあるものを あててごらんよ。

ままむすめ：指輪！

4月：あたった！さあ、持っていきなさい。さっき 呪文をとねえたのが、よかったのさ。そうじゃなかったら、君は もう指輪にも ぼくたちにも会えなかっただろう。さあ。

ままむすめ：どうもありがとうございます。いつまでも大事にするわ。

1月：さしあたり 今日は おまえをうちまで無事に おくりとどけなきゃならん。

2月：櫓と馬をプレゼントしよう。

6月：それから鈴もね。…おや？

…女王、博士、兵士 近づいてくる。…

ままむすめ：女王様だわ、兵隊さんも 先生も。

1月：さあ、たき火をあたたくしておくれ。わたしは、あの兵隊に
たき火であたたまらせてやると約束した。

兵士：(走ってきて) そら、たき火だ。みなさんごきげんよろしゅう。
ちょいと ぬくもらせておくんなさい。

1月：あたって行きなさい。

兵士：(気がついて) やあ、ご主人。豪勢な火だね。おまえさんの所は。
女王様、博士！ こちらへ。

ままむすめ：もっと近くへ お寄りなさい。その方が あたたかいわ。

…女王、博士、兵士は、むすめに気付ки おどろく。…

女王：いやだわ。わたし。

兵士：まあ、女王様。まず、たき火に おあたりなさいませ。お顔が真っ白
で ございますよ。まず、ちっとばかりぬくもって元気をつけましょ
う。(櫓に 気づく) こりゃあ すごい！だれのだね あれは。

1月：持ち主は、ほら そこにいる。

兵士：よいものを お買いなすって おめでとう。

ままむすめ：買ったんじゃないの。これは、…いただいたの。

1月：さて、お客さんがた、わたしらも そろそろ仕事にかかる時だ。
おまえさんがたも 出かけないと、おそくなる。急いだ方がいい。

兵士：わかっておりますが、なにしろ馬も櫓も消えてしまったんで。
あの櫓で運んでくれたらねえ。

1月：持ち主に たのんでごらん。

兵士：(女王に) たのめと お命じに なりますか？

女王：いりません。

兵士：じゃあ しかたがない。歩いてまいりましょう。

博士：女王様、御殿までは、たいへんな距離でございます。わたくしも
あなたさまも 凍えてしまいます。

女王：でも あの子に なんて頼んだらいいの？あの子がいやだって言っ
たら どうするの？

1月：承知してくれるかも しれないじゃないか。あの子の櫓は、広々と
している。

女王：だって わたくしは、あの子の指輪を取り上げて おどしたわ。それ

に わたくしは、人にものを頼むことを 教わりませんでした。命令
することしか できません。だって わたくしは 女王よ！

2月：(博士をさして) あれは あんたの先生かな。

女王：ええ。

2月：(博士に) どうして あんたは そんな簡単なことを あの子に
教えなかったの。

博士：女王様は 自分の気に入ることだけを学ばれました。

女王：まあ！…本当ね。でも、今日 わたくしは、3年間あなたに習った
よりも もっと たくさんのことを知ったわ。

(むすめに) ねえ、あなた。わたくしたちを あなたの櫓に乗せて
行ってちょうだい。あなたには、王として ほうびをあげてよ。

ままむすめ：ありがとう ございます、女王様。でも あたしには 何でも
ありますの。

女王：ほらごらんなさい。…いやだって。

2月：おまえが、ちゃんと頼まないからさ。

女王：(博士に) わたくし ちゃんといわなかった？

博士：いいえ、文法的には、まったく正しくおっしゃいました。

兵士：女王様、わたくしは、学のねえ人間ですが、これは、文法がどうのこ
うのことでは ないのです。あなたさまが、あの子にほうびを
やると おっしゃるのが いけないのであります。ただ「乗せて行っ
て おくれ、どうかおねがい」と、おっしゃれば よろしいのです。

女王：わかったわ。(むすめに) わたくしたちを 乗せて行ってちょうだ
い。どうか おねがい。わたくしたちは 凍えそうなの。

ままむすめ：いいですとも。もちろん お乗せしますわ。先生ま兵隊さんも

女王：そう、ありがとう。御殿にもどったら、あなたには、金貨と十二着の
着物とそれから…

一同：(せきばらいなどをする)

博士：あなたは また！

女王：わかってます……言いません、言いません！

1月：では 兵隊さん。ご苦労だが お城まで 行っておくれ。

この櫓は、足が 速いよ。時計の針を追い越してしまうのだ。

女王：わたくし、御殿にもどったら あなたのおっかさんたちを家へ帰して
あげるわ。あの人たちも ずいぶん懲りたでしょうから。それにあの

人たちが わたくしをだまそうとしたのも もとはといえば わたくしが
ばかげたお触れを 出したからですもの。

一同：(うなずく)

女王：そうそう、帰ったら 新しいお触れを出そうと思うの。「昔から
もらうことになっている以上に、森から取ろうとしては、いけない。
春のものを冬 手に入れようとするのは、1 番いけない」って。
ままむすめ：すてきなお触れですわ。あの人たちも、そしてこの森もきっと
よろこんでくれるでしょう。

1 月：そろそろ…

ままむすめ：そうね。お別れね。…さようなら 1 2 の月たち。みなさんの
新年のたき火を 一生わすれません。

女王：わたくしも。

月たち：元気でな。さようなら。気をつけて。(など)

ままむすめ：さようなら、4 月の兄さん！

4 月：さようなら！

…人間たち 去っていく。…

1 月：やれやれ たいへんな新年だった。みんなご苦労さん！まる 1 日、
よけいに足止めをしてしまったな。 (4 月に) おい、いつまで
ぼんやり みおくっている。さあ、みんな 支度だ！

(歌「黄金の太陽」、旅支度をした月たちは、お互いに別れのあいさつを
かわし、ひとり またひとりと消えてゆく。やがて新年の太陽がのぼり
幕は、ゆっくりと とじられてゆく。)

全体合唱：「森は 生きている」

配役 紹介

あねむすめ：それに こんな指輪まで。いったいどこで拾ってきたのだろう
…手をかざす

まま母：だけど、なんて強情な子だろう。絶対にしゃべろうとしない。

あねむすめ：ほんとよ。 (憎々しげに)

まま母：さあ、お城に いかなくっちゃ。

…2 人 いそいそと去る

ままむすめ：何もおこらなかつたみたい。全部 夢だったみたい。花もない (テーブル
) し、指輪もないわ。森からもってきたもので のこっているの

は たきぎだけ。さようなら、新年のしあわせ！さようなら

1 2 月の兄弟たち！さようなら 4 月のにいさん！

→※は、大よろこび。さっそく…（幕の前で。まま母とあねむすめ 笑いながら登場）